

すべては牛改良のために

発行所：社団法人 ジェネティクス北海道

平成22年5月15日号

Sire

サイア

Vol.382

5
月号

CONTENTS

- 2 海外レポート
北米における乳牛改良最近事情(1)
- 4 オセアニア特集
オーストラリア・ニュージーランドに
おける乳牛改良状況
- 7 GH-X 10年の歩み
- 8 牧場訪問
アイオンの故郷を訪ねて
- 11 連載⑤
サイロ・サイレージ物語
- 12 黒毛和種ニュース
- 13 黒毛和種 種雄牛紹介
H黒-139『松糸勝39』
H黒-156『菊糸松56』
- 16 アイオンと娘牛達

北米における乳牛改良 最近事情(1)

去る3月末にアメリカを訪れ、乳牛改良状況やブリーダーを訪問する機会を得ましたのでその1部をご紹介します。

1 エリートカウの現況

2010年1月に公表されたアメリカ遺伝評価成績(TPI)は、以前よりも産乳成分(能力)の重みを下げ(TPI全体の42%になった)、生産寿命や娘牛妊娠率にさらに重み付け置いたものとなりました。

TPIの公式を各形質で重み付けをすると、娘牛妊娠率と決定得点共に10%でほぼ同等となりました。(乳器も10%であるが決定得点の中に乳器が入っているので実際には10%以上の重みがある)

以上のことから、エリートカウの血液もさらに管理形質や長命性に深く関与する乳器や肢蹄が重要視され、中でも現在セカンドクロップで活躍中のボルトン(アメリカ)【写真1】、トイストーリー(アメリカ)、ジエツトストリーム(アメリカ)、ジャーデイン(ドイツ)、ラモス(ドイツ)【写真2】、また昨年引き続き、シヨツテル(イギリス)、ゴールドウイン(カナダ)が多く、未経産牛ではブラネット(アメリカ)や、アレキサンダー(アメリカ)の人気が目立っていました。

今後は、カナダのMrバーンズやバクスターの娘牛のセカンドクロップ牛が期待されているようです。

2 計画交配に利用されている交配種雄牛

先に述べたように生産寿命や娘牛妊娠率に重み付けされ、それらの改良に大きく貢献しているオーマンの息牛達の活躍が目立つようになりました。中でも2010年4月に公表されTPI全米第1位にランキングされたフレディー(バツジャーブラツフ



ボルトンの娘牛



ラモスの娘牛



フレディーの娘牛

フアニー フレディー【アメリカ 父:オーマン 母の父:ダイハード】は昨年に引き続き多く利用されており【写真3】、ネットメリット(\$)ナンバーワンの種雄牛として注目され、さらに分娩難易度が低いことや乳器・肢蹄が優れているのも魅力のようです。また、血統が父オーマンで母の父がダイハードというように生涯生産寿命の高い種雄牛が組み込まれているのも、多くのオーマンの息牛がいるなかで特別に注目されている理由の一つのようです。

また、全米第2位のスーパー(シャーレスデール スーパーステイション ET【アメリカ 父:ポリヴァー 母の父:オーマン】)も「好体型」「好乳器」「高能力」のスーパーサイアーとして利用されています【写真4】。分娩難易度が低いことや、アウトクロスとして利用できることから多くのブリーダーからの人気が高いようです。

その他にナイアグラ(アメリカ)、ジエラード(アメリカ)、ブロンコ(アメリカ)、ギャレット(アメリカ)等が利用されていました。

3 注目されているファミリー

現在、アメリカで注目されているカウファミリーとして、2010年4月評価のCTPIでNo.1に輝いた「ゴールド エヌ オークス マラベル ET VG-87(父:ラモス)」のファミリーを挙げます。当ファミリーの代表牛であるゴールド エヌ オークス S マーベラは、祖母のゴールド エヌモーティ マリブ ET EX-92の雄大なフレームを備え、好乳器は次世代にも確実に伝えていきます。ファミリーの特徴は十分な乳用性を備え、幅広い尻、また乳器は底面が高く、付着良く、乳頭の配置が正確です。

能力面では乳量が高く安定し泌乳持続性に優れています。また、特に乳脂肪が高いのもこのファミリーの特徴といえます。

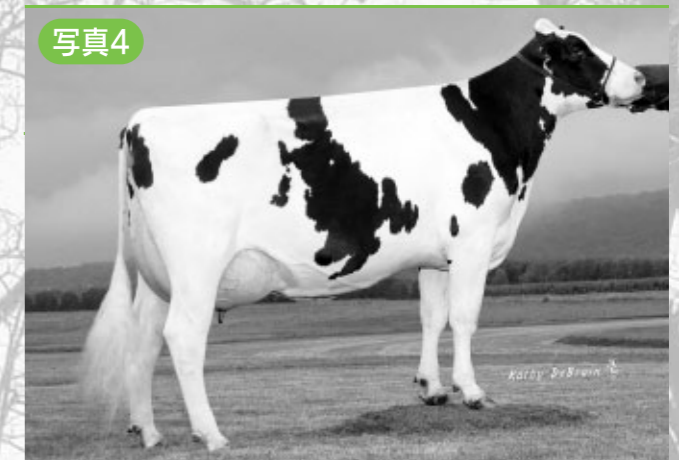
(改良部 藤田 功)



オーナーのジョン・スヴェンソン氏

【血統】

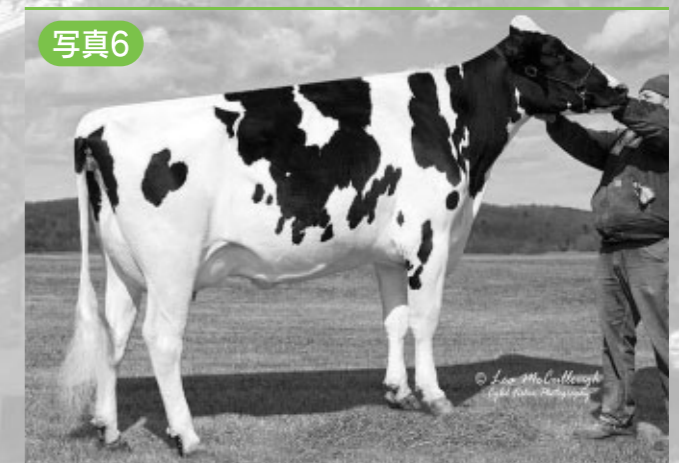
- ゴールド エヌ オークス モーティ マリブ ET EX-93【写真5】
(父:モーティ)CTPI +1553(4/2010)
- ゴールド エヌ オークス S マーベラ ET VG-89【写真6】
(父:シヨツテル)CTPI +2149(4/2010)
- ゴールド エヌ オークス S マラベル ET VG-87
(父:ラモス)CTPI+2270(4/2010)
- ゴールド エヌ オークス S アラベル ET VG-87
(父:ラモス)CTPI+2188(4/2010)



スーパーの娘牛



ゴールド エヌ オークス モーティ マリブ ET EX-93



ゴールド エヌ オークス S マーベラ ET VG-89

オーストラリア・ニュージーランドにおける乳牛改良状況

平成22年4月下旬にオーストラリア及びニュージーランドにおける乳牛改良状況を見る機会がありましたのでその概要の一部を紹介します。

オーストラリア

1 一般概要

オーストラリアは日本と比較すると面積が20倍、人口が約1/6です。広大な土地を十分に生かした酪農が特徴ですが、乳用種の飼養頭数(経産牛)約170万頭の約64%が南東部のビクトリア州に飼養され、1戸あたりの平均飼養頭数(経産牛)は約202頭です。

乳用種のうち約78%がホルスタイン種で、その他はジャージー種、ホルスタイン×ジャージーの交雑種、オージーレッド種等で構成されています。

ホルスタイン種の能力平均は乳量7,080kg 乳脂肪率3.94% 乳蛋白率3.29%で、平均分娩間隔は396日でした。(ADHIS^{*1}2009より)尚、検定頭数普及率は46%で、多くはB検定法で1頭あたり平均5~6回/年の実施でした。

多くの酪農家に牛舎は無く、ミルクパーラーが自宅の近くに存在しています。昼夜放牧で搾乳時にロータリーパーラーに追い込み、搾乳後は

オーストラリアのホルスタイン種



再び放牧地に戻っていきます。

後に紹介するニュージーランドと比較して大きく異なる点は搾乳時に濃厚飼料を給与している事でした。

2 ホルスタインの体型

体格審査はオーストラリアホルスタイン協会が実施しており、合計22形質を審査し、乳器40%、肢蹄25%、乳用強健性25%、尻10%という重み付けで実施されていました。

一般酪農家のホルスタイン雌牛はフレームがあり、肋腹も充実しており、日々の放牧による運動は肢蹄をより強くし、口が大きく、下顎がしっかりした牛が目立ちました。

^{*1}: Australian Dairy Herd Improvement Scheme (オーストラリア乳用牛群改良組合)

オーストラリアのジャージー種



オーストラリアのオージーレッド種



オーストラリアのホルスタイン×ジャージー交雑種



オーストラリアのロータリーパーラー



3 乳牛改良目標とゲノミック技術

APR^{*2}と呼ばれる選抜指数を用いて改良が進んでいます。わが国の産乳成分:耐久性成分:疾病繁殖成分で例えると30:24:46ぐらいの構成となり、近年では特に受胎性に重みを置いて改良を進めているとの事でした。

ゲノミックについては5年前から取り組んでいますが、現在はあくまでも選抜方法の1つとして考えているようで、2010年8月から種雄牛評価成績には取り入れる予定です。

オーストラリアの牛は鼻鏡が広く、下顎が発達している



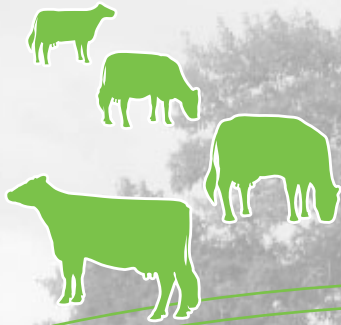
ニュージーランド

1 一般概要

ニュージーランドは日本と比較すると面積が75%、人口が約1/30で、先に紹介したオーストラリアとは環境が異なり、限られた土地をより効率的に利用した収益性が求められています。生乳生産量の約95%が輸出向けであることがニュージーランド酪農の特徴です。

乳用種の飼養頭数(経産牛)約425万頭の約66%が北部の島で飼養されており、1戸あたりの平均飼養頭数は366頭です。乳用種にはホルスタイン種、ホルスタイン×ジャージーの交雑種、ジャージー種、エアシャー種等が利用されていますが、近年一番伸びている品種はホルスタイン×ジャージーの交雑種で、LIC(ニュージーランドの人工授精所及び家畜改良組合)ではホルスタイン×

^{*2}: Australian Profit Ranking (オーストラリア収益性ランキング)



NEW ZEALAND



×ジャージーの交雑種精液をKIWI CROSS (キウイクロス)としてブランド化して販売していました。

能力平均は乳量3,829kg 乳脂肪率4.87% 乳蛋白率3.64%で、(ICAR^{*3}2008年)平均分娩間隔は370日との事でした。また、検定頭数普及率は71.5%であり、多くはB検定で1頭あたり平均3.5~4回/年立会を実施しているとの事でした。

ニュージーランドでは季節繁殖が行われ、授精繁忙期の9~12月には生精液が利用されています。多くの酪農家はオーストラリア同様に牛舎はなく、ミルクパーラーはヘリンボーンを利用し、昼夜放牧型で濃厚飼料の給与は殆ど行わず、完全放牧草地型酪農となっていました。

② ホルスタインの体型

体格審査はニュージーランドのホルスタイン協会が実施しており、13形質を審査し、乳房の深さの審査は無く、乳房懸垂の中に含まれているのが特徴的でした。

ニュージーランドの乳牛は比較的コンパクトで、大きい牛は好まれず、その理由として飼養効率、BCS^{*4}の管理、牧草地へのダメージを挙げていました。また、白い牛は日光から皮膚への悪影響がある事を理由にあまり好まれていないようです。

③ 乳牛改良目標とゲノミック技術

ニュージーランドではBW^{*5}と呼ばれる選抜指数を用いて改良が進んでいます。わが国の産乳成分:耐久性成分:疾病繁殖成分で例えると67:6:27ぐらいの構成となり、生体重に対して約13%のマイナスの重み付けをしているのが特徴的です。

^{*3}: International Committee for Animal Recording (家畜の能力検定に関する国際委員会)

^{*4}: Body Condition Score (ボディコンディションスコア)

^{*5}: Breeding Worth (育種価値)

ゲノミックについては2009年6月から遺伝評価に採用しており、オーストラリアよりは積極的に利用しているようでした。

おわりに

今回、オーストラリアとニュージーランドに訪問し、同じオセアニア地域ではあるが、両国には飼養管理や牛に大きな違いがあることを感じました。両国とも放牧型酪農として代表されますが、ニュージーランドはさらに完全放牧型で、品種の構成や牛の特徴を見ることができました。また、「牛1頭でどれくらい牛乳を生産できるか」という考え方よりも、「1haの牧草でどれだけ効率よく収益を上げられるか」という考え方を大切にしている様です。

両国ともにわが国とは異なる乳牛改良状況でしたが、一番大事なことは、それぞれの国の環境に合った牛づくりを目指すことだという事を、今回の調査で実感しました。

(改良部 藤田 功)

ニュージーランドの理想的な牛 16歳EX牛



GH-X 10年の歩み

ジェネティクス北海道(以下、GH)が、性選別精子の技術を導入して、今年で10年を迎えます。当初1台だった選別装置「フローサイトメーター」は、今年6台になりました。

GHがフローサイトメーター「MoFlo SX」モフロ エスエックス(写真1)の1号機を導入したのは、平成12年10月のことです。当時の十勝事業所の一角を改装し、約20㎡の部屋でスタートしました。それまで見たこともない機械であったことに加え、英語で講習を受けなければならず「苦労した(担当者談)」そうです。その後受胎試験を重ねてXY社(ライセンス元、米国)の認証を受け、平成19年春に「GH-X」の一般販売が実現しました。当時の生産本数は1日30~40本程度でしたので、生産倍増を図るため、同年の暮れに2号機を導入しました。

平成20年度、部署名も「GH-X生産課」と変わり、更に3号機の導入が計画されました。しかしMoFloのバージョンアップ時期に重なったことと、選別精液への期待から酪農生産基盤改善支援対策事業により1台増となり、3・4号機となる「MoFlo XDP SX」(写真2)が年度ぎりぎりに導入されました。昨年度は酪農生産基盤強化緊急対策事業により、今年2月に5・6号機を導入したところです。XDPは、SXと比べて選別スピードが上がり、また少しかコンパクトにもなりましたが、いずれにせよスペースを食う機械です。導入および増員のため平成21年7月に建物を増築、現在は約100㎡の実験室で、早川次長率いる7名のメンバー

が選別精液の生産に従事しています。

フローサイトメーターは、日々調子が変わり、手のかかる機械ですが、ようやくまとまった数の生産が出来る体制となりました。これからは品質の確保・向上と安定生産

を課題とし、生産者の皆様のお役に立てるよう尽力してまいります。

(生産部 GH-X生産課 橋本優子)

写真1



写真2



アイオーンの 故郷を訪ねて

～江別市 中田牧場を訪問して～

平成22年2月の種雄牛評価成績において、ダントツの決定得点を持った「ミッドフィールド CCM アイオン」(以下アイオン) (写真1) が衝撃的なデビューを飾りました。このレッドキャリアを持った若きホープは、これからの乳牛改良、特に体型改良をリードし、ショウリングでの活躍が最も期待されるGH種雄牛です。

今回、アイオンの生産者である中田和孝牧場を訪ね、母である「クラツクホーム コムスター メモリー ET」(以下メモリー) (写真2) の導入した時のお話などを伺いました。

牧場の概要

中田牧場のある江別市は札幌の東に位置し、石狩平野のほぼ中央で、夕張川、千歳川、石狩川の合流地点です。道内では比較的温暖な地域に入りますが、冬のもっとも寒い時期は-20℃を下回り、石狩湾と太平洋を吹き抜ける風の通り道に当たり、1年を通じて風が強い地域です。

当牧場は明治39年に畑作を始め、同42年から牛飼いを始めましたので、104年の長い歴史を持ち、和孝さんで4代目となり、息子さんの幸貴さんは5代目になります。飼養頭数は経産牛46頭、未經産牛35頭の81頭で、所有地27ha、借地22haで牧草のみを作っています。

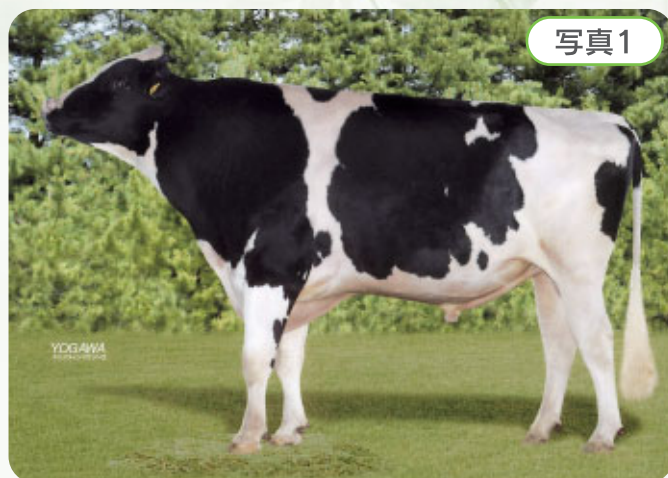


写真1

ミッドフィールド CCM アイオン

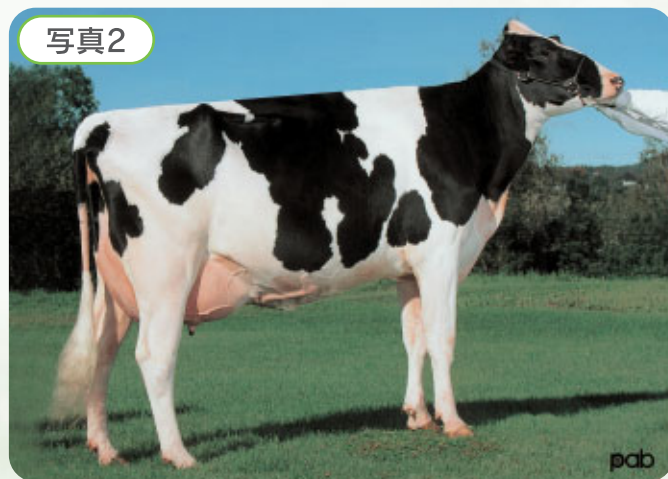


写真2

クラツクホーム コムスター メモリー ET

導入の経過

2001年の初め、当時JHBSの応接室で、12月号のホルスタインジャーナルの裏表紙にウォーレガン牧場の広告が中田さんの目に入りました。それはCLPI(カナダのインデックス)No.1のメモリーを\$77,000で購入したという記事でした。中田さんは「乳も出て、良い体型の牛だな、でも

こういう牛は売らないよな〜」という独り言のよ
うな、冗談のような言葉が始まりでした。ウォー
レガン牧場のブルース・スミス氏とは取引があつ
たため、交渉してみると「売るよ」という返事に「えっ、
まさか」と思ったそうです。シンジケートなども
考えたそうですが、最終的に個人で購入する事を
決断したそうです。

そして、2001年10月のワールドデイリーエキ
スポに奥さんで行った時に、メモリーはまだクラ
ックホーム牧場において、初めて対面をしたそう
です。その時「かっこいい牛だな〜」とますます気
に入ったようです。しかし、その年はアメリカでテ
ロがあり入国・出国のセキュリティチェックが厳
しく、何度もカバンを開けられたという苦いエピ
ソードもあったそうです。

いよいよメモリーが中田牧場に

それから1年たった2002年11月、メモリーが
5才になる少し前に待望の日はやってきました。
そしてその次の日、当初「売らないだろう」と思っ
て購入していたメモリー×ダッチボーイの受精
卵による、ミッドフィールド CCM メロデイが誕生
しました。更に1ヶ月後、メモリー本牛が分娩し
ミッドフィールド CCM メーテル(父:フォービ
ツデン)が誕生、一気に2頭の娘を得ることとなり
ました。

採卵状況

メモリーは採卵成績が良く、輸入された1年目
から31個、2009年も33個採卵され、その後も順
調に採卵を続け、合計すると100個以上生産され

ました。受精卵は道内のみならず、岩手県、群馬県、
三重県、鳥取県、熊本県など広範囲に譲渡され、
ファミリーが繁栄しています。交配種雄牛もエモ
リーデリー、モーテイ、フリーランス、ギブソン、
ダーハム、ゴールドウイン、トイストーリー、ミリ
オン、スーパー等、多彩な顔触れとなっております。
また、常に本牛の血液の成分を分析しミネラル等
の数値に気を配っていますので13歳になった今
年も採卵予定が入っているそうです。



写真3 ミッドフィールド CCM ゴールドウイン ハルミル ET



写真4 ミッドフィールド CCM ゴールドウイン ファイニア ET

楽しい写真大募集

日頃の牛舎作業の中で、楽しい風景を見つけたら、
是非写真を撮って送ってくださいね！携帯からで
も大歓迎だよ！写真をいただいた方に、記念品をプ
レゼント！お待ちしております。♪♪♪

ここに
送ってね!

➡ genemaga@gh-assoc.ne.jp



★ファーストキス★



左から ジェネティクス北海道 専務理事 渡辺 浩一 中田牧場 中田 和孝 中田 幸貴

メモリーの娘牛・息子牛について

娘で印象に残っているのは数々いますが、隣の岩田淳一牧場のエモリーデリーの娘「ロツクヘルス ミッドフィールド メモリー ET」は、栃木全共へ出品した好体型牛でした。また、苫前町の苫前デリークラブ(以下TDC)のギブソンの娘(TDCシルキー メモリアル ET)もフレイムの良い牛です。「ミッドフィールド」の冠名の付いた牛では昨年全道共進会第1部で2位になった「ミッドフィールド CCM ゴールドウイン ハルミル ET」(写真3)と妹の「フィーニア」(写真4)がおります。妹は兵庫県のル・メイユール シンジケート所有となり、今年中国地区BWショウでジュニアチャンピオンに輝きました。

息子たちでは、国内でRマーシャルが2頭、ダッチボーイが1頭、モーテイが1頭、セプテンバー(アイオン)が1頭、フリーランス1頭の計8頭が後代検定にかけられました。海外でも13頭の種雄牛が検定しているそうです。

今後に期待すること

「今、酪農家はタイプの良い種雄牛を求めています。その中でも乳が出て、フレイムが良いことが大切です。日本の授精所にはそういう種雄牛造りを期待しています。

メモリーは元々北米の遺伝子ですが、日本でも良い成績を出しています。また全国にその遺伝子は広まり、今後も娘、孫娘から良い種雄牛が出ることを期待しており、わが国乳牛のレベルアップに貢献できればと思っています。」

最後に

今回取材をさせていただき、最初は冗談?から始まった「メモリー」神話。

これからも日本各地で娘、孫、曾孫の活躍が期待されます。そしてまた、このファミリーから各種雄牛が出ることを夢見て中田牧場を後にしました。

お忙しい中、取材にご協力いただいた中田和孝氏に感謝いたします。

(道央広域事業所 吉田 潤嗣)

連載⑤ サイロ・サイレージ物語

～人海戦術だった戦後10年ごろのサイロ詰め～

昭和20年代も後半になると世の中が落ち着き始めてきた。しかし、食糧難は続いており、コメと畜産物の増産が国の重要政策であった。

子供の成長に欠かせない動物性タンパク質の自給が求められ、酪農の振興が叫ばれた。その担い手を養成すべく、1950(昭和25)年に北海道野幌に酪農学園短期大学が設立され、全国から酪農を目指す熱い志を抱く若者たちが集まった。

この時期にコメ増産のため八郎潟などの干拓事業が始まり、さらに牛乳の増産政策が打ち出される。そこで稲作と結び付けた水田酪農が推奨された(写真1)。

「親牛4頭飼えば一人前」と言われた時代で、府県では稲作農家が競って数頭の乳牛を飼った。粗飼料は稲わらを刻んで青草と混ぜて食べさせた。

当時、東北農業試験場が開発し、農家の間で流行した技術がある。畑

や田んぼの裏作にシロクローバをまき、そこに乳牛をロープでつなぎ、クローバを濃厚飼料の代わりに食べさせる技術で、乳がよく出たという(東北農試50年)。

しかし、稲作農家が牛を飼うのだから順調にいくはずもない。ロープが首に巻き付いて牛が死ぬ事故が相次いで起こった。

そこで、牛の行動観察試験の結果、繋牧するときは鎖のよじれを防ぐよう戻し装置を付けること、鎖の長さは3.5m程度がよいなどの指導がされた。

当然ながら冬の餌も必要で、トウモロコシサイレージが作られた。サイレージ調製は、ようやく普及し始めた電動モーターでカッタを回し、トウモロコシを3cm程度に切断した(写真2)。

原料のトウモロコシは、草丈が高く茎葉が多い栃木ホワイトなど晩生の品種で、収量をたくさん取るた

め堆肥を多量に施した。

サイロは10トン程度のブロック製かコンクリート製のものが多く造られた(写真3)。サイロへの詰め込みは隣近所を総動員した人海戦術で行った。

そうした中で予想もしない事故が岩手県で発生している。サイロに入って踏み込み作業をしていた数人が、突然倒れて死亡したのである。

原因はサイロ内の酸素欠乏ということであったが、今考えると堆肥を多量に施用したトウモロコシを、硝酸態窒素が最も多い乳熟期に刈り取っており、かつ即座に数人が倒れた状況から考えると二酸化窒素ガス中毒であろう。二酸化窒素ガスは、原料詰め込み後24時間以内に発生し、微量でも死亡することよく知られている。

この後、安全なサイレージ調製技術の研究が始まった。

この連載は、酪農学園大学短期大学部名久井教授の著書「サイロ・サイレージ物語」より抜粋したものです。なお、この本は同大学の生協にて販売されております。



(写真3) 1955年ごろのトウモロコシを詰めたブロックサイロ



(写真1) 稲わらとサイロのある水田酪農の風景



(写真2) 普及し始めたカッタを使っのトウモロコシの切断

黒毛和種ニュース

～H黒-80の最新共励会成績～

第11回

栗っこ農協「仙台牛」枝肉共励会で チャンピオン!

2月4日に東京食肉市場で開催された第11回栗っこ農協「仙台牛」枝肉共励会で、H黒-80北平安の産子が最優秀賞を獲得しました(写真1)。「審査員の満票で決まった文句のない牛。全体の体形・肉質もよく、力強い、素晴らしい仕上がりだった」との講評でした。



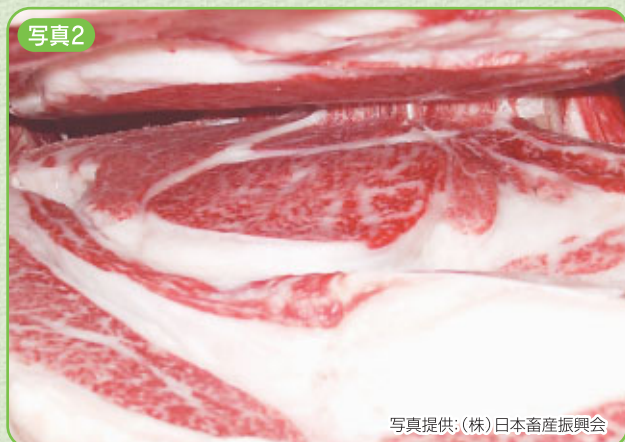
写真提供: (株)肉牛新報社

去勢 32.0ヶ月齢 東京食肉市場 平成22年2月4日上場
母の父: 金幸 母の祖父: 平茂勝 肥育者: 宮城県/二階堂 利行 氏
枝肉重量: 498.0kg ロース芯面積: 69cm² BMS No.12 格付: A-5

平成21年度

村上牛枝肉共励会(新潟県)で 最優秀賞!

2月5日に東京食肉市場で開催された平成21年度村上牛枝肉共励会(新潟県)で、H黒-80北平安の産子が最優秀賞に選ばれました(写真2)。枝肉について審査員は、「最優秀賞の山賀さんの枝肉は厚みのある仕上がりでのよい牛で、モモ抜けしっかりしていた」と述べました。



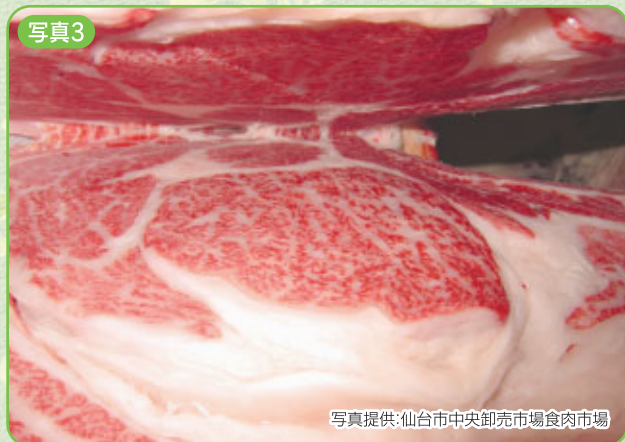
写真提供: (株)日本畜産振興会

去勢 30.8ヶ月齢 東京食肉市場 平成22年2月5日上場
母の父: 平茂勝 母の祖父: 北国7の8 肥育者: 新潟県/山賀 治彦 氏
枝肉重量: 497.0kg ロース芯面積: 60cm² BMS No.11 格付: A-5

第22回

根元畜産グループ肉牛枝肉共進会 チャンピオン賞!

4月13日に仙台市中央卸売市場食肉市場で開催された第22回根元畜産グループ肉牛枝肉共進会で、H黒-80北平安の産子がチャンピオン賞を受賞しました(写真3)。



写真提供: 仙台市中央卸売市場食肉市場

去勢 36.0ヶ月齢 仙台中央食肉卸売市場 平成22年4月13日上場
母の父: 茂勝 母の祖父: 平茂勝 肥育者: 宮城県/鈴木 香 氏
枝肉重量: 503.5kg ロース芯面積: 79cm² BMS No.12 格付: A-5



H黒-139『松糸勝39』 H黒-156『菊糸松56』 ～『もりひめ2』の系譜～

『松糸勝39』・『菊糸松56』を生産した徳島県の“松平牧場”は、平成14年9月に間接検定を終了した『北金波1』が脂肪交雑4.0の驚異的な数値を叩き出し、一躍時の種雄牛(ひと)と成りました。本団では今までに当牧場から『北安福165の1』・『北安福165の2』・『北安菊27』など多くの種雄牛を導入繋養していますが、黒毛受精卵の生産牧場としても採卵雌牛(田尻系・茂金系・菊美系・藤良系・気高系)が充実しており、それらに人気種雄牛を交配した受精卵を豊富に取り揃えた、“種雄牛の造成”に貢献している牧場です。

今回紹介する『松糸勝39』・『菊糸松56』は、母系が『きそひめ』系で但馬牛の主力系統「中土井系」種雄牛『安谷土井』[安福(岐阜)・谷福土井の父]の母『いつひめ』[父:田森土井]と同系統です。

先に述べました、『北金波1』(茂重波×菊照土井×安谷土井)の母『もりひめ2』[父:菊照土井]は『きそひめ』系で数多くの種雄牛が輩出されており、その娘や孫娘たちは現在の松平牧場を支える大きな柱となっています。

『もりひめ2』を一躍有名にした『北金波1』は、肉質に抜群の能力を発揮した種雄牛であり血統的にも希少な「熊波系」を代表する種雄牛であります。

しかし、当時の『平茂勝』をはじめとする増体系への移行の波には抗えず、増体量不足の本牛には不利な時代となりました。

そこで、“松平牧場”では、増体能力を向上させた質量兼備な種雄牛の造成を目指し、作出されたのがH黒-139『松糸勝39』とH黒-156『菊糸

松56』です。

H黒-139『松糸勝39』(写真1)は、『もりひめ2』に増体に優れ全国を席卷した種雄牛『平茂勝』を交配した『てるひめ10』に、さらに増体性を確実にすべく大分県の基幹種雄牛『糸福』を交配した種雄牛です。現場後代検定



表1 H黒-139 松糸勝39 成績一覧

整理番号	性別	母の父名号	母方祖父名号	と畜月齢	枝肉成績						
					格付	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMS No.
1	♀	安金	糸光	30.6	A-5	430	63	8	2	76	9
2	♂	隆桜	秀安	28.8	A-3	414	50	7	2	74	4
3	♂	藤桜	糸光	28.3	A-4	487	57	7	2	74	6
4	♀	福栄	宮桜	31.4	A-5	482	56	8	3	74	8
5	♂	高栄	第20平茂	28.8	A-4	455	59	7	3	74	7
6	♂	安福2の9	賢深	27.9	A-5	491	61	8	2	75	8
7	♂	糸北富士	茂重波	28.7	A-3	464	51	7	2	73	5
8	♂	糸北富士	茂重波	28.7	A-3	441	55	8	2	75	4
9	♀	安福栄	北国7の8	31.2	A-4	442	59	7	3	74	7
10	♂	宝栄2	初代14	27.7	A-2	498	55	9	1	75	3
11	♀	糸光	賢深	29.3	A-4	421	54	8	3	74	7
12	♂	茂光	城芳14	29.3	A-3	486	59	8	2	74	5
13	♂	森正	富の10	27.6	A-4	447	58	7	2	74	7
14	♀	北国7の8	誠隆	29.2	A-4	439	57	9	2	76	8
15	♀	北国7の9	寿高	31.0	A-3	456	50	8	4	72	3
16	♂	第2富藤	高庭	27.5	A-4	442	60	8	3	74	5
17	♀	茂糸波	藤桜	30.9	A-3	446	54	7	3	73	5
18	♂	北仁	森正	29.0	A-5	491	72	7	3	75	10
19	♂	北賢桜	北大閏	26.9	A-2	394	37	6	1	73	3
20	♂	菊福鶴	中包	28.4	A-4	510	58	9	2	75	5
21	♂	茂勝	糸藤	28.9	A-5	520	72	8	3	75	11
22	♀	中包	峰森	30.9	A-2	400	50	7	3	73	3
23	♀	北国7の8	安福165の9	30.6	A-3	495	56	7	3	73	5
24	♂	美津福	大神	28.8	A-3	423	49	7	2	73	4
25	♂	深晴	糸光	29.3	A-4	489	51	9	2	74	5
26	♂	金鶴	谷水	28.6	A-4	477	56	8	3	74	7
27	♂	北国7の8	糸杉4	26.8	A-3	452	65	8	2	76	5
28	♂	金鶴	高栄	28.9	A-4	454	50	7	2	73	7
29	♀	北国7の8	紋次郎	30.2	A-4	442	57	7	3	74	7
30	♀	北国7の8	菊福鶴	30.3	A-4	411	49	7	2	73	7
31	♂	美津福	菊照美	29.2	A-5	449	63	9	2	77	9
32	♂	深晴波	福谷	29.1	A-4	501	66	7	2	75	6
33	♂	美津福	糸藤	29.1	A-3	459	49	7	2	73	4
34	♀	茂光	金高	30.9	A-5	531	65	8	3	74	9
35	♂	寿高	第35松玉	27.1	A-3	434	49	6	2	73	4
36	♂	安福165の9	神高福	28.0	A-5	522	54	7	2	73	8
37	♀	中包	糸光	30.8	A-4	413	60	8	2	75	6
38	♀	紋次郎	第12西丸	30.3	A-5	410	54	8	3	74	9
39	♂	安美金	寿高	28.5	A-5	498	58	8	3	74	8
40	♂	安福	安栄	27.8	A-5	497	65	8	2	75	10
41	♂	糸晴波	糸光	27.2	A-4	431	62	7	2	75	5

	月齢	上物率	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMS No.
平均	29.1	65.9%	459.6	56.7	7.6	2.3	74.1	6.3
標準偏差	1.3		36.1	6.8	0.7	0.6	1.0	2.1
♂平均	28.3	63.0%	467.6	57.1	7.6	2.0	74.2	6.1
♀平均	30.5	71.4%	444.1	56.0	7.6	2.7	73.8	6.6

の成績(表1)ではBMS No.11、10をはじめ、優秀な成績を示し(上物率65.9%)、平成21年11月の北海道育種価(表2)で脂肪交雑14位にランクされました。

本牛の大柄で質感良い体型を引き継ぎ、現場後代検定材料牛41頭の枝肉重量は平均459.6kg(♀444.1kg、♂467.6kg)と、増体能

力も優れておりました。「但馬系」に交配された材料牛が多く見られましたが、全体的に発育・増体性に優れ、特に中駆幅もあり、斉一性にも富んでおりました。

今回の検定成績の結果は「但馬系」との相性が抜群であり、上物率は80.0%となりました。

(写真2)、(写真3)

また、一昨年の第5回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会に3頭の雌牛が出品され、全て上物であった事をご記憶されている方も多いのではないのでしょうか。

H黒-156『菊系松56』(写真4)は、『もりひめ2』に増体性を加味すべく「藤良系」種雄牛『第7系桜』を交配して体積均称に優れた『てるひめ6』を造成し、さらに増体と肉質に定評のある大分県の基幹種雄牛『寿恵福』{父系祖父『糸福(大分)』の父『第7系桜』}を交配することによって、増体能力に加え、現在、最も要望の強い「藤良系」種雄牛として期待される種雄牛です。

検定が終了した直後なので、北海道内の育種価評価は公表されておりませんが、上物率は55.9%でした。(表3)現場後代検定材料牛34頭の枝肉重量は平均443.9kg(♀425.5kg、♂458.4kg)と「但馬系」の交配が多い中、

表2 H黒-139 北海道育種価評価

枝肉重量:育種価(kg)	57.250
ロース芯面積:育種価(cm ²)	9.611
バラの厚さ:育種価(cm)	0.580
皮下脂肪厚:育種価(cm)	-0.779
歩留基準値:育種価(%)	1.679
脂肪交雑	2.045
産肉成績(頭)	42

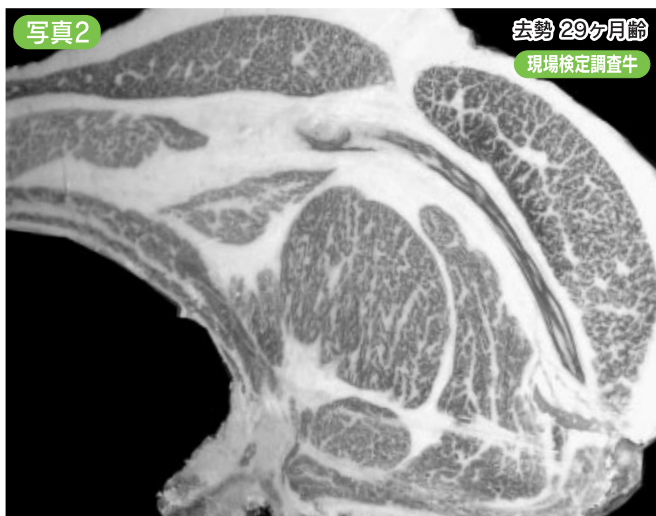
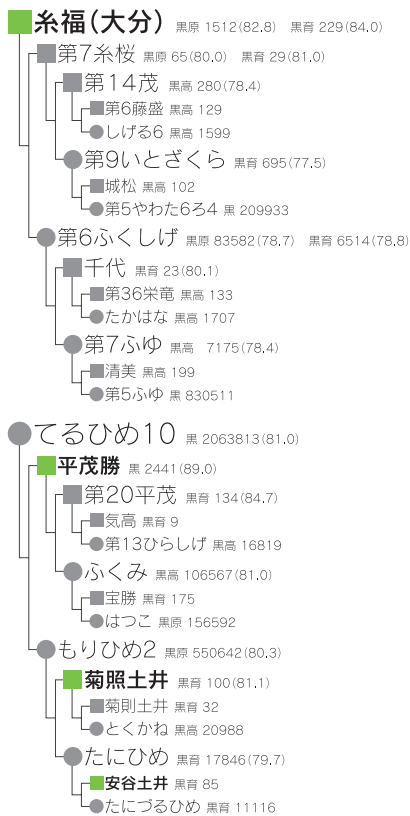
十分な体積を示しており、「但馬系」材料牛の平均枝肉重量で平均437.3kgと高い増体能力を示しております。

特に、「気高系」との交配では上物率77.8%と相性が良く、枝肉重量も平均466.8kgと、平均を大きく上回る高成績でした。

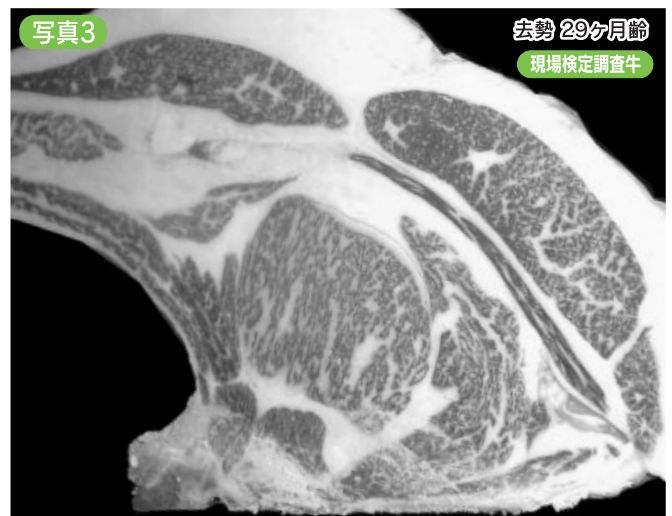
今後、「気高系」の血液を色濃く持つ雌牛が増えることを勘案すると、期待度の高い種雄牛です。

さらに、昨年度の第6回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会で、浦幌町の大西孝幸氏肥育の出陳牛(去勢)が現場後代検定の部で最優秀賞(血統構成:菊系松56×賢深×系光◆)に輝き、枝肉重量459kg、ロース芯面積61cm²、BMS No.11と、ボリュームのある見事な枝肉でした。(写真5) 松平さんの様に補完しながら意

血統 H黒-139 松系勝39



母の父:茂勝 × 母の祖父:糸藤 肥育者:広尾町/竹山 一夫 氏
枝肉重量:520kg ロース芯面積:72cm² BMS No.11 格付:A-5



母の父:北仁 × 母の祖父:森正 肥育者:広尾町/竹山 一夫 氏
枝肉重量:491kg ロース芯面積:72cm² BMS No.10 格付:A-5



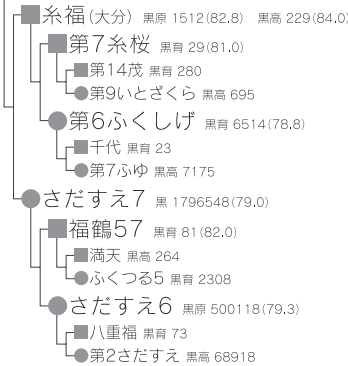
写真4

H黒-156 菊糸松56

血統 H黒-156 菊糸松56

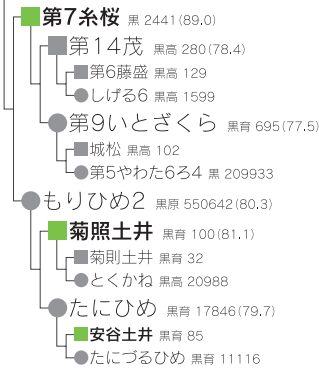
寿恵福

黒原 3717(83.4) 黒高 2014



てるひめ6

黒原 65(80.0) 黒育 29(81.0)



図的に牛を創っていくことはとても重要なことです。

狙った能力を確実に受け継ぎ、次の代へと繋げていくこと。これがまさに改良の本質と言えます。本団といたしましても、より改良効果の優れた種雄牛造成に取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

また、市場状況が厳しい中、生産者の皆さんにとりましても次の時代を見据え“大切な畑”である狙った形質を持った雌牛を確実に造成していくことも必要と考えています。

(肉牛改良課 石田 誠)

第6回 ジェネティクス北海道 黒毛和種枝肉共励会 最優秀賞

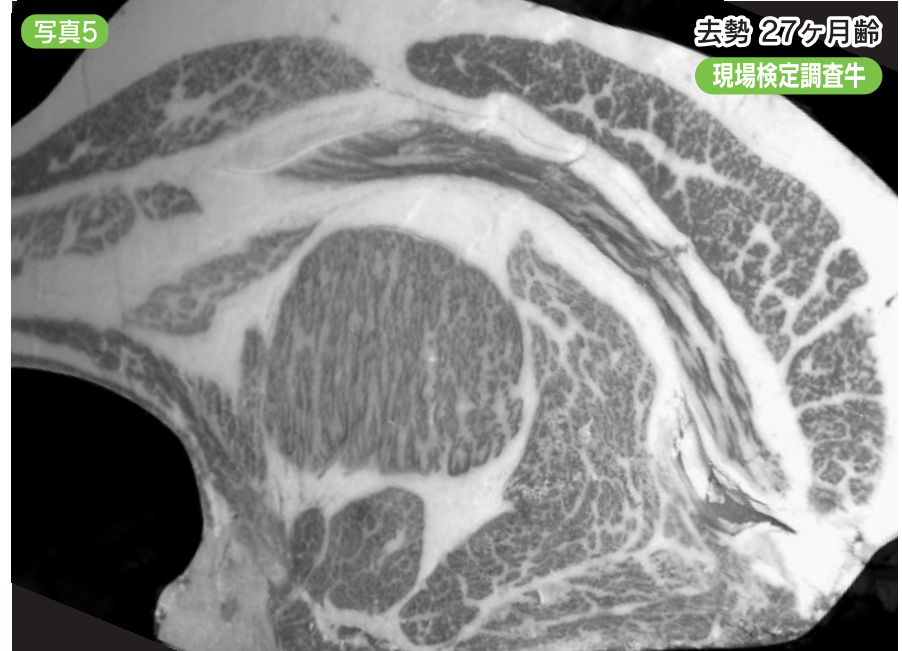


写真5

去勢 27ヶ月齢

現場検定調査牛

母の父:賢深 × 母の祖父:糸光◆ 肥育者:浦幌町/大西 孝幸 氏
枝肉重量::459kg ロース芯面積:61cm² BMS No.11 格付:A-5

表3 H黒-156 菊糸松56 成績一覧

整理番号	性別	母の父名	母方祖父名	と畜月齢	枝肉成績						
					格付	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMS No.
1	♀	安平照	平茂勝	30.7	A-4	465	63	8	3	74	7
2	♂	家康	若岸8の6	28.6	A-3	465	48	7	2	72	5
3	♀	熱富士	第2安鶴土井	30.0	B-3	401	47	7	4	72	4
4	♂	高栄	安福165の9	28.6	A-4	506	53	9	4	73	6
5	♀	金鶴	谷茂	30.9	A-4	422	63	8	3	76	7
6	♂	茂重桜	藤桜	28.7	A-3	437	56	7	2	74	5
7	♀	平茂勝	高栄	29.8	A-3	480	56	8	2	74	4
8	♀	初代14	乙社6	32.0	B-3	376	43	6	3	72	4
9	♀	金幸	神高福	28.3	A-4	406	58	8	2	75	8
10	♂	谷美土井	照神土井	28.3	A-4	496	58	8	3	74	8
11	♀	平茂勝	北国7の8	30.0	A-4	452	57	7	3	73	7
12	♂	平茂勝	紋次郎	27.4	A-5	507	60	8	3	73	8
13	♂	美津福	北国7の8	28.9	A-4	433	56	7	2	74	7
14	♀	金幸	神高福	30.1	A-4	501	57	8	3	74	7
15	♀	安平	誠隆	28.0	A-3	404	49	9	3	74	5
16	♂	高栄	福松	27.9	B-2	560	48	8	5	70	3
17	♀	美津照	北国7の8	27.3	B-3	298	36	5	2	71	5
18	♀	照本	福昌	25.8	A-3	378	49	6	3	73	4
19	♀	紋次郎	中包	29.8	A-2	405	52	6	2	73	3
20	♂	平茂勝	安福165の9	27.7	A-4	523	70	8	3	75	8
21	♂	高栄	金徳	27.6	A-4	505	64	7	2	75	7
22	♂	賢隆	賢晴	27.5	A-2	406	43	6	2	72	3
23	♂	美津照	平茂勝	28.1	A-4	466	53	8	3	73	6
24	♀	北国7の8	平茂勝	29.2	B-2	461	50	7	4	71	3
25	♂	福栄	賢深	27.3	B-3	504	53	8	4	72	4
26	♂	糸松波	美津福	27.9	A-4	426	49	8	2	74	5
27	♀	菊福鶴	中包	28.9	A-4	389	57	6	2	74	6
28	♀	賢深	糸晴波	29.3	A-4	467	64	8	3	75	7
29	♀	安平	景藤	29.0	A-4	420	51	6	2	73	6
30	♀	第1花園	平茂勝	27.0	B-4	482	50	7	3	72	6
31	♂	賢深	糸光	26.9	A-5	459	61	8	3	74	11
32	♂	高栄	北国7の8	26.8	A-4	413	60	8	2	75	6
33	♂	美福	北国7の8	28.4	A-2	377	49	7	1	74	4
34	♂	安福165の9	晴安	28.5	A-3	403	45	6	2	73	4

	月齢	上物率	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMS No.
平均	28.6	55.9%	443.9	53.8	7.2	2.7	73.3	5.7
標準偏差	1.3		53.9	7.2	1.0	0.8	1.3	1.9
♂平均	28.0	57.9%	458.4	54.0	7.4	2.5	73.4	5.8
♀平均	29.3	53.3%	425.5	53.5	7.0	2.9	73.1	5.5

NEW

JP3H53584

NTP +1,743

No.30

ミッドフィールド CCM

TL/TV

アイオン



- セブテンパー ストーム
- ルドルフ
- マンデル
- レイダー

エクセルランド ピーターチエ メモリー 84.0(2歳)
根室市/武隈 博氏 所有
母の父/シエードイーレインシー サベージ ET



マリリン アイオン メモリー 84.0(2歳)
別海町/斉藤 俊英氏 所有
母の父/オムラフアーム リスペクト セルシー



写真撮影:ホルスタインマガジン社

決定得点 **+2.44** **全国第1位**

乳器 **全国第3位**
+1.69

肢蹄 **全国第3位**
+1.05

耐久性成分 **全国第5位**
+541

疾病繁殖成分 **全国第10位**
+31

※全国順位はNTP40位以内の数値です。

カウンテス ベイトリアーク コーダイ
別海町/早坂 操氏 所有 母の父/ハッピークロス ベイトリアーク ET



社団法人
ジェネティクス北海道
GENETICS HOKKAIDO assoc.

〒060-0004
札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル13F
[業務部]
TEL(011)242-9645 FAX(011)242-9651
[改良部]
乳牛改良課(011)242-9646
肉牛改良課(011)242-9647

- 道北事業所 TEL(0166)57-6111 FAX(0166)57-6113
- 道東事業所 TEL(0153)72-4554 FAX(0153)72-1325
- 道央広域事業所 TEL(011)375-4422 FAX(011)375-2330
- 十勝北見事業所 TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150
- 十勝清水種畜センター TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150
- 道央種畜センター TEL(011)375-3939 FAX(011)375-2330